

地方銀行を利用するメリットについて

今回のテーマは、地方銀行で取引をすることのメリットについてです。

主に中小企業や個人事業主の方は、信用金庫・信用組合だけでなく地方銀行とも取引をしているかと思います。今回は地方銀行と取引をすることのメリットや実状についてお話しさせていただきます。

【組織について】

まず銀行は信用金庫や信用組合と異なり、株式会社であることから営利法人となります。よってスタンスとしては、利益を追求しそれを株主に還元していくこととなります。そして銀行は大きく 2 つに分けられます。それが都市銀行と地方銀行となるのですが、この 2 つの違いは規模の差です。都市銀行は日本全国の主要都市に支店網を持っていること、また預金量や貸出量が大きいだけでなく、大企業や上場企業との取引も多く海外展開も積極的に行っております。一方で地方銀行は本店を置く都道府県やその周辺地域を中心に営業する銀行です。一般的には地元の個人や中小企業、地方公共団体を顧客とし、地域に密着した営業網を構築し、地域経済に資金を回す役割を担っております。その点では信用金庫に似ている部分となります。

【取引の制限について】

地方銀行は信用金庫と違ってエリアや取引を開始する面での制限は基本的にはありませんが、実務上は担当者が対面でサポートできる範囲を重視する為、全く支店がない遠隔地での取引はハードルが高いのが現実です。また、信用金庫と違い融資を受ける際に会員となる必要もなく資本金や従業員の制限も基本的にはありません。その点では信用金庫よりもハードルは低くなるかもしれません。

【地方銀行内での規模について】

一方で地方銀行の中でも規模に差があります。規模の小さな地方銀行と規模の大きい信用金庫を比べるとそこまで大きな差がない、あるいは信用金庫の方が規模として大きいケースもあります。またここ近年は特に地方を中心に人口減少が進んでいることが主で再編・統合が進んでおり、ホールディングスやファイナンシャルグループとして経営している銀行も増えております。(直近では長野県の八十二銀行と長野銀行が該当します)

【地方銀行を利用するメリットについて】

中小企業や個人事業主が地方銀行と取引する上でのメリットは、規模等の制限がなく、事業に関する相談ができるということです。地方銀行の目線で考えた場合に年商ベースで 3 億円～50 億円の事業者をメインとしていることが多いです。(100 億円企業等もあります。)このような事業者は借入金額も大きくなることが多く、信用金庫では審査に時間を要するところが地方銀行ではスムーズにいくことが多くなります。現に地方銀行の支店によっては借入金額の最下限を 3,000 万円と設定しているところもあるようです。

また大きな設備投資を行いたい場合の補助金情報や取引先同士のビジネスマッチング、M&A 等の高度なサービスを積極的に受けたい場合等も地方銀行の方がサービスの幅が広く、その部分もメリットとして挙げられます。更に今後事業拡大等を検討している場合も地方銀行の方が営業エリアも広いことから対応もしやすくなります。

一方でその地域内での販路拡大や連携を重視していきたい場合や、借入等の経営面においてとにかく面倒見の良さを重視する場合には信用金庫の方が良いかと思います。

今後どの金融機関をメインバンクとしていくかについては、企業の成長に合わせて最適な金融機関を選択していく形が望ましいです。各金融機関担当者としつかりと関係を構築していき、常に先を見据えた金融機関取引を心掛けていき、よりよい経営を目指していきましょう。